第１回　城端地域学校のあり方検討委員会（会議記録）

【日時】令和７年２月２５日（火）　開会：午後７時００分　閉会：午後８時０３分
【場所】城端市民センター　２０３会議室
【出席委員】水上 和夫　委員長　松居　裕　副委員長　赤尾 素子　委員
松井　渉　委員　神口 美菜　委員　夏梅 紘行　委員
勇﨑 香志　委員　稲場 えみ　委員　鶴見 康祐　委員
古軸 裕一　委員　近川 利行　委員　松平 健一　委員
和田 弘恵　委員
【欠席委員】松本 久介　委員　山根 正行　委員　嶋田 裕樹　委員
安達 正彦　委員
【事務局員】教育長　松本 謙一　教育部長　氏家 智伸
教育総務課長　上野 容男
教育総務課副参事　山本 佳和　教育総務課副参事　金谷　諭
教育総務課主幹　山田 浩司

【会議要点】

・城端地域学校のあり方検討委員会委員長に水上 和夫 氏、副委員長に松居 裕 氏をそれぞれ選出した。
・事務局から「第Ⅱ期南砺市立学校のあり方に関する提言書」について説明した。また、同提言書では、「小学校の機能は各地域に残し、中学校はクラス数に一定の条件を定めて地域ごとに統合の協議を開始する」という方向性であることを、出席委員とともに確認した。
・教育委員会では、「第Ⅱ期南砺市立学校のあり方に関する提言書」に沿って、学校のあり方について検討を進めていることを説明した。また、それに基づき、第１回城端地域学校のあり方検討委員会を開催していることも説明した。
・城端地域の学校のあり方について検討を進めることを確認した。
・第２回検討委員会で学校のあり方案を２，３案までに絞れれば、第２回検討委員会の後に、城端地域の住民を対象とした地域説明会を実施することを確認した。

【会議記録詳細】

１　開会

２　教育長挨拶

（教育長）

今、南砺市はどんどん人口が減っています。それに伴って、学校のあり方をもう一度考えてみなくてはならない時期にきました。

この検討委員会で一番大事にしてほしいことは、「今生まれている、また、これから生ま

れてくる城端の子どもたちにとって、どんな教育環境が一番いいのか」を第一に考え、学校のあり方について結論を出していただきたいということです。長丁場になるかもしれませんが、どうかよろしくお願いいたします。

３　組織について

（１）事務局から城端地域学校のあり方検討委員会設置要綱（案）について

（事務局）

- 資料１に沿って説明 -

（２）委員の委嘱及び任命（質疑なし）

（３）委員長及び副委員長の選出

（事務局）

委員長の選出について、事務局から提案という形にさせていただきます。

この検討委員会を開催するに当たって準備委員会を開催し、そのなかで推薦のありました、城端教育振興会会長の水上和夫様に委員長をお願いしたいと思います。皆様いかがでしょうか。

（委員拍手をもって承認）

（事務局）

それでは、委員長は水上和夫様にお願いします。また、副委員長は、委員長の指名となっておりますが、いかがでしょうか。

（委員長）

できれば、小学校のＰＴＡ会長に副委員長をお願いしたいと思います。

（事務局）

委員長のご指名ということなので、副委員長は松居委員にお願いします。

（４）委員長挨拶

（委員長）

今、子どもたちがどんどん減っている状態です。３～５年後に城端小学校が全学年単級になってから話し合っても手遅れになります。早いうちから、城端地域の皆さんが集まって意見を交換しながら、「子ども真ん中」の視点で、城端小学校・城端中学校がどうあるべきかということを話し合っていきたいと思います。

保育園や小学校の保護者の皆様の意見をお聞きし、お互いに意見を出し合いながら、城端の子どもたちが良い教育を受けられるようにしていきたいと思っております。よろしく

お願いします。

４　報告事項

（１）第Ⅱ期南砺市立学校のあり方に関する提言書について

（事務局）

提言に至るまでの経緯を説明いたします。

平成２８年３月に、第２次公共施設再編計画が出されました。同計画では、８地域の小・中学校は維持するとした一方で、児童生徒数が適正規模を下回れば、統合の必要もあるとしていました。そのなかで、令和元年から協議を開始した第２次公共施設再編計画の改定方針検討委員会において、市内の公共施設の数を現状の２分の１にすることが必要であるされました。

このことを受け、学校に関しては、「文部科学省の学校規模適正化の手引きに合わせ、市内の小学校を４校、中学校を２校にすべきでは」という意見が出ました。そこで、教育委員会では、少子化に伴う小・中学校のあり方を検討するため、令和２年に第Ⅰ期南砺市立学校のあり方検討委員会を設置しました。

第Ⅰ期検討委員会では、学校数を減らすことよりも、児童生徒の教育環境を第一に考えて議論されました。その結果、第Ⅰ期検討委員会から出された提言書では、「クラス替えができる間は現在の教育環境を生かし、児童生徒数が減った場合でも、むしろ、小規模のメリットを最大限に発揮し、地域を基盤とする小中一貫教育を進める。また、多くの児童生徒が徒歩・自転車で通学できることが望ましい」とされたことから、将来的には各地域の学校を義務教育学校として統合するという方向性が示されました。この方向性は、義務教育学校とすることで、教員数を減らさずに少人数指導も可能となることに加え、どの学校も比較的新しく、今後２０年間は十分に使用可能であることや、旧町村で育まれた文化を生かしていくという考えから生まれたものです。ただし、複数の小・中学校がある福光地域では、小学校同士・中学校同士の統合も選択肢とし、他地域でも保護者が望まれ、地域の了解が得られれば、旧町村をまたいでの再編統合も検討するとしていました。

しかし、第Ⅰ期の提言書では、方向性までは示していたものの、具体的に統合の協議を開始する時期について示されていませんでした。その上、当初の想定以上に人口減少が進み、学校を取り巻く環境も変化してきたことから、当初の予定よりも２年前倒しし、令和４年４月に第Ⅱ期南砺市立学校のあり方検討委員会を設置しました。

第Ⅰ期検討委員会では義務教育学校を設置する方向性でした。一方で、第Ⅱ期検討委員会では、「小学校の機能は各地域に残す」という意見で一致しましたが、中学校に関しては、「隣接する地域の中学校と統合する」という意見と、「小学校と統合して義務教育学校とする」という両方の意見がありました。このことから、中学校はクラス数に一定の条件を定め、地域ごとに統合の協議を開始するとしました。統合の検討に当たっては、現在の教育環境をできるだけ維持しながら、統合の選択が必要となったときに、より当事者に近い世代の方に決めていただくこととしています。

教育委員会では、第Ⅱ期南砺市立学校のあり方に関する提言書に沿って、学校のあり方

について検討を進めており、それに基づき、本日は第１回となる城端地域学校のあり方検討委員会を開催させていただきました。現在、福光地域でも、第Ⅱ期提言書の提言内容に沿った学校統合パターンで検討しています。

（委員長）
先に検討が始まっている福光地域の学校統合案について、具体的に説明をお願いできますか。

（事務局）
一つ目が「福光地域全体で小学校１校・中学校１校」とする案、二つ目が「小学校２校・中学校１校」とする案、三つ目が「吉江中学校区と福光中学校区でそれぞれ義務教育学校を設立し、義務教育学校を２校」とする案です。１月に福光地域の各校区単位で住民説明会を開き、これらの統合検討案について説明しています。現在は、各団体や各地域で、それぞれの案に対するご意見を聴いていただいているところです。

（委員長）
福光地域の３つの学校統合案は検討委員会が考えたものでしょうか。それとも、教育委員会が提案したものでしょうか。

（事務局）
教育委員会から複数の案を提案しました。それらの案を検討委員会で協議し、その結果、福光地域学校統合検討委員会において、提言書に沿った３つの案で検討を進めることで決定しました。

５　協議事項

（１）城端地域の学校のあり方について

（委員長）
城端地域は小学校１校、中学校１校なので、統合するとなれば、小学校と中学校を統合して義務教育学校になるのか、ほかの地域の中学校と統合するのかという話になります。いずれにしても、皆さんのご意見を出し合いながら進めていきます。ただし、準備委員会でも「統合前提で話合いをするものではない」としておりましたので、色々な意見を出していただきたいと思います。
委員の皆さんに少し個人的な話をさせてください。私はスクールカウンセラーをしていて、中学校は平中学校と庄川中学校に行っています。それぞれの学校の学級数は、平中学校は単級で、庄川中学校は１年生２クラス、２年生２クラス、３年生１クラスの計５クラスです。
平中学校と庄川中学校で何が違うかというと、先生の配置が全然違います。例えば、２クラスあると、それぞれの教科に基本的に２名ぐらいの先生がいます。ところが、単級に

なると、国語・社会・数学・理科・英語の教員が１人ずつになります。また、技術や美術の選任教師がいなくなる場合があり、臨時講師がその時間だけ来て、そのまま帰っていくことになります。教育環境としてはどちらが良いのかと考えてしまいます。

どういう環境が子どもたちにとっていいのかを考えながら、皆さんと話し合いたいと思います。

また、せっかくですので、自己紹介をお願いします。

（委員Ｏ）

城端小学校を最初に見たとき、「なんて立派なグラウンドがある小学校なんだ」と感動したことを覚えています。それだけに、学校の統合は寂しい話だと思っています。

（委員Ｋ）

これまで部活動のあり方検討委員会や、学校のあり方検討委員会にも出席し、南砺市の皆さんの意見を幅広く聞いてきました。城端地域の人だけで集まったときは、「ほかの中学校と統合するべき」という意見と、「義務教育学校でいいのでは」という２つの意見に分かれた印象です。皆さんで意見を出し合いながら、いい方向に進めばと思います。

（委員Ｊ）

個人としては、部活動と教育を分けて考えなければいけないと思っています。プロの教師である先生方の意見と、親御さんの言葉を大事にしながら、ベストではないが、ベターな形で進んでいくことが大事だと思っています。個人的には義務教育学校も大きなテーマだと思います。

（委員Ｈ）

子どもたちも親世代も城端に対する想いがあると思うので、その声を聞きながら委員として役に立てることがあればと思います。

（委員Ｅ）

私自身が城端で生まれ育ったこともあり、子どもたちにも自分が過ごしたような環境で育ってほしいという思いはありますが、人的リソースなど、色々と考えないといけないこともあると思います。先入観にとらわれることなく、子どもたちにとって一番良い環境をつくるということを中心に、できることを皆さんで模索できるような委員会にしていけたらいいと思います。

（委員Ｃ）

県外出身なので、少し客観的な立場として意見が出せたらと思います。当事者である教員の立場からの統合と、義務教育学校のメリット・デメリットを聞かないと、保育園児の親の立場からしても判断材料がありません。保護者、商工業、部活動などの視点から、メ

リット・デメリットを出した上で、検討していきたいと思います。

（副委員長）
南砺市、特に城端地区は、少子化の流れの最先端を走っています。これから開園する桜ヶ池のＰＬＡＹ ＥＡＲＴＨ ＰＡＲＫの影響で、人口が増えて大きく発展することも祈っていますが、そうならなかったときのためにも、この委員会で良いほうに向かう話ができるようにしたいと思います。

（委員長）
私も城端出身で、自分の子どもたちも城端小学校・城端中学校を卒業していますので、学校に愛着がありますし、残ってほしい気持ちは強いです。ただ、今から通う子どもたちがどのような姿で学んでいくのがいいのか、皆さんと一緒に考えていきたいです。

（委員Ｂ）
私も城端出身です。自分が子どものときに城端で経験できたことを、今の子どもたちにもできるような環境が続けばよいと思います。

（委員Ｄ）
年齢が下がるほど、子どもが減っているのを感じています。統合についてはなんとなく聞いてはいましたが、会議に出ると改めて実感します。南砺の地域ごとの良さを残しつつ、子どもたちが過ごしていく上で、一番いい環境を考えていきたいと思います。

（委員Ｇ）
各選択肢のメリット・デメリットを検討委員会で情報提供いただき、保護者に少しでも多くの判断材料を渡した上で、情報収集の場を設けながら、どのような方向に進むかに選択していきたいと思います。

（委員Ｉ）
ＰＴＡの委員会で意見を聴きましたが、意見が分かれ、学校のあり方は難しい問題だと感じました。もし、福光地域との統合となるのであれば、登下校の方法がどうなるかも聞きたいです。

（委員Ｎ）
当時の城端中学校は、５５人７クラスで、３学年で１，１００人ほどいました。今日の資料を見ると当時の１クラス分にも満たないので、色々と思うところはあります。個人としては、義務教育学校がよいと思っていたが、メリット・デメリットがあると思うので、自分なりに整理して方向性を決めたいと思います。

（事務局）
城端地域の学校のあり方について検討を進めてよいか、ご意見をお願いします。

（委員長）
単級になってしまってからでは手遅れになってしまうので、今から話し合いながら、この２年間で意見をまとめ、地域の皆さんに意見を聞くということになるかと思います。この形で進めてよろしいでしょうか。

（委員一同　拍手をもって賛成）

（事務局）
次回の会議では、義務教育学校について、メリットやデメリットも併せて説明します。
福光地域と統合した場合の通学方法についてのご意見がありました。もし、福光地域との統合となれば、広域なのでスクールバスということになると思いますが、もちろん通学方法も検討していくことになります。

（委員Ｊ）
福光地域と統合という話が出ましたが、福光地域での統合検討に対し、城端地域はどのようなタイミングで、どのように関わっていくのでしょうか。

（事務局）
福光地域は、先ほど申し上げた３案で統合を検討しています。もし、福光地域が義務教育学校を選択した場合は、城端地域の中学校が福光地域の義務教育学校と統合するということはないと考えます。

（委員Ｊ）
そうであれば、この委員会で検討しなければならないことは、福光地域のことを考慮しないで話し合っていくということですね。

（事務局）
現段階では、義務教育学校とするか、それとも中学校を統合するかということになります。
もし、福光地域の中学校が統合することになった場合は、福光地域との統合の話が考えられます。一方で、先に福光地域が義務教育学校にすることを決めると、城端中学校の統合先がなくなるので、自ずと城端地域も義務教育学校を設置することになると考えます。

（教育長）
次回の委員会では、学校のあり方案のメリット・デメリットを提示しながら、福光地域

だけでなく、他地域との統合を含めた想定できる案を全て出します。そこから、検討委員会において、絶対に考えられないであろう案を除いていただき、残った案から学校のあり方を考えることになります。

（委員長）
福光地域で、学校統合案の結論が出るのはいつ頃でしょうか。

（事務局）
現在、委員には、各地区での説明会の意見を集約してもらっているところであり、３月末の統合検討委員会で意見を聴く予定です。福光地域学校統合検討委員会の任期は、来年度いっぱいとしていますが、今の段階では来年度中に結論が出るとはいえない状況です。

（委員長）
福光地域が先に話が進んでいることは間違いないですか。

（事務局）
そのとおりです。福光地域は検討委員会を２回開催し、学校統合案の地域説明会も行っています。

（委員長）
福光地域は福光地域で検討を進めていますが、城端地域は城端地域として検討を進めなくてはいけません。福光地域の結論は出ていませんが、我々は、「城端の子どもたちのために、学校のあり方をどのようにしていけばよいか」ということを、この委員会で話し合っていきましょう。

（２）今後の進め方について

（事務局）
本日の第１回検討委員会では、提言書の内容説明と現状を報告しました。
第２回検討委員会は、５月頃に開催予定です。その際に、想定される学校のあり方のパターンを、メリット・デメリットも含めて提案します。第２回以降の委員会については、順次開催していくこととしています。また、検討委員会で、学校のあり方の案が絞れれば、城端地域の住民を対象とした地域説明会を開催したいと思っています。
第３回検討委員会では、学校のあり方案に対する意見や地域説明会で出た意見を取りまとめ、方向性を決めたいと考えています。
そして、第４回検討委員会では、統合時期や使用する校舎を決定することを想定しています。
検討委員会で意見がまとまれば、提言書という形でまとめていただき、教育委員会に提言していただきます。教育委員会では、提言書に基づき、具体的に協議を進めていく「設

置協議会」を設置します。もし、他地域と統合することにした場合は、改めて合同の検討委員会を設置し、協議を進めることになります。

（委員長）

第２回検討委員会で想定される学校のあり方案のパターンを提示されるとのことですが、第２回検討委員会でパターンを絞り込むのは早すぎる印象を受けました。

第２回検討委員会で学校のあり方案のパターンをある程度絞り込み、各委員が所属する学年やＰＴＡなどで相談したものを持ち寄り、地域説明会で提示するパターンを決めるイメージを持っていました。

（教育長）

第２回検討委員会で、城端地域の学校のあり方案を２、３パターンに絞れれば、ＰＴＡ部会や地域に説明できます。そこまで絞れなければ、地域説明会は開かず、一回、各団体で意見を集めていただければと思います。２、３パターンまで絞れないと、地域全体への説明はできないと考えています。

（委員長）

第２回検討委員会で学校のあり方案を２、３パターンに絞れればよいですが、もしできなければ、第３回検討委員会で協議を続けることにします。

６　次回の日程

（事務局）

次回の第２回検討委員会は、５月に開催を予定しております。

７　副委員長挨拶

（副委員長）

城端地域の子どもたちにとって、どのような学校のあり方が良いのかを、皆さんとしっかり検討しながら、メリット・デメリットをしっかり議論した上で、「こどもど真ん中」、そして、「誰一人取り残さない教育の実現」に向け、皆さんと一緒に協議していきたいと思います。よろしくお願いいたします。